

令和4年(2022年)東京朝顔研究会 大輪朝顔栽培講習会

<切込み作り> 第1回 資料

東京朝顔研究会 窪田顕子

花・葉・鉢をふくめた全体のバランスの取れた花姿、「**葉小花大**」が目標です。

1. 栽培の準備 (行灯・らせん仕立てと共通)

栽培環境について (☞手引き p.16)

- ・ **日当たりの良いところ**。午前中に陽が当たり6時間以上の日照が望ましいが、工夫により補うこともできます。
- ・ **風通しの良いところ**。栽培期間の大半が鉢土を乾かす管理が重要で、水分過多は蔓の伸び、葉の肥大をもたらしてしまうため。
- ・ **栽培棚の位置・高さ**

{	地上栽培の場合…地上から最低でも60cm以上。
	ベランダ・屋上栽培の場合…コンクリート直置きは避ける。

培養土の準備 小鉢・切込み作り本鉢用は共通のものを使用しています。

自作の場合

☐ 例 腐葉土：赤玉土（小粒）：軽石（小粒）：もみ殻燻炭＝3：3：3：1

(他、手引き p.47 参照)

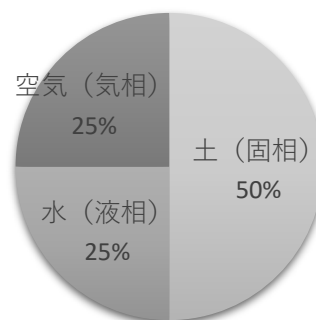
※もみ殻燻炭以外はふるいにかけて、微塵を取り除いておく。

元肥は控える。(小鉢用土には幾らかの肥料分を加えても良い。…培養土20Lあたり、化成肥料20g、ようりん40g、過リン酸石灰15g、マグアンプK10g など)

※10鉢あたりの必要量の目安 3号鉢：3.5L、4号鉢：8.5L、7号鉢：35L程度

☞良い土の条件は? 「**土の三相**」

土の三相



花銘札 プラスチック製、木製 (簡易水量計の役目を果たします)。表には花の名前、裏には作り手の名前等をネームシールで貼る／手書きする。

その他 温度計 (気温・地温を計測)、播種箱・播種土(後述)、ふるい など栽培に必要な道具を揃えておく。

2. 種蒔きから発芽まで（行灯・らせん仕立てと共通 手引き p.17~21）

植物の発芽に必要な環境条件は3つ。

空気(酸素)， 適当な温度， 水。

朝顔が発芽する適温は20~25℃，東京・近県では5月上旬以降に蒔くようにします。天気予報や行事・仕事を勘案して播種日を決めましょう。

切込み作りの場合，展示会へ出品するためには，色彩花は5月25日~28日頃，無地花は5月31日~6月4日頃を目安に播種したい。

⇒色彩花は無地花よりも生育がやや遅いため，先に色彩花を蒔き，数日後に無地花を蒔くことで調整します。

- (1)芽切り…朝顔の種子は硬い種皮で包まれているため，カッターや爪切り，やすりなどで種の表面を少し傷つける「芽切り」という処置を施すことで，吸水を促し，発芽のタイミングを揃えます。

注) 深く切りすぎると双葉に穴があくことがある。

こちら側を傷つける



へそ…発根部 傷つけないように！

- (2)吸水…紙コップ（プラスチック製も可）に水と種子と花銘札を入れ，1~数時間吸水させる。

※省略可

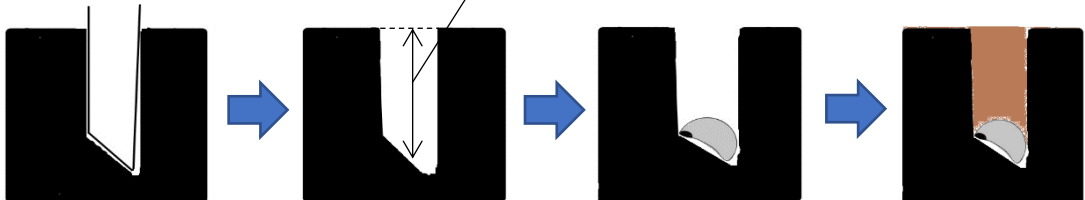
- (3)種蒔き…播種箱，プラカップ，6cm 苗ポット，セルトレイ等に蒔き土を入れて使用。

蒔き土は，川砂：パーミキュライト（小粒）=7：3程度の割合で混ぜたもの など。

市販の種蒔き用土や芝目土などを用いても良い。未使用品を用意する。

- ① 種蒔き土をぬるま湯で十分湿らせておく。
- ② 種を植える深さは約1.5cm。へその部分が下，丸みのある背中側が上になるように蒔き，覆土する。割りばしなどで穴をあけ，ピンセットでつまんで穴に入れると良い。
- ③ 花銘札を間違いないように挿す。

深さ約1.5cm



- ④ 種蒔き後は発芽の適温（22~26℃程度）に保つと早く発芽する。例発砲スチロールの蒔き箱を，使い捨てカイロを使って保温する。土表面が乾いてきたら，30℃程度の温水で湿らせる。注) 加温しすぎないこと。

(4)土の表面に「地割れ」が見られたら陽に当てましょう。陽当たりが不十分な場合，モヤシ苗になってしまいます。皮被りの場合，種を湿らせピンセットでそっとつまんで取り除く。

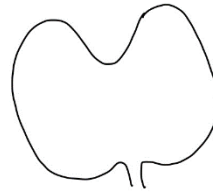
(5)種蒔きから4，5日ほど経つと双葉が合掌~展開するので，小鉢上げを行います。

3. 小鉢上げ（行灯・らせん仕立てと共通）☞手引き p.22～23）

発芽した苗の双葉が展開する前後で、小鉢への移植を行ないます。

☞良い苗とは？

- ・ **胚軸が太いもの。**
- ・ **双葉の切れ込みが浅く、軍配形をしているもの**
⇨切れ込みが深く、双葉の先が尖っているもの（糸切りハサミ形）は大輪に咲かないと言われている。
- ・ **双葉の斑が少ないもの。** 多いものは成長が遅い傾向がある…双葉のほとんどが真っ白な「白子苗」はほとんど成長せず枯れてしまうため、抜き捨てる。



軍配形→大輪



糸切りハサミ形→小輪

☞**胚軸に花色の兆候が現れる。** 軸色を観察してみよう。（手引き p.14）

使用する鉢：3号サイズの駄温鉢あるいはスリット鉢

準備するもの：鉢底ネット、鉢底石、培養土、花銘札、プラスチック製フォーク・箸・ヘラなど、メネデール、アブラムシ防除剤（オルトラン粒剤など）、小粒の固形肥料など

- (1) 駄温鉢の底穴をネットでふさぎ、鉢底石を1列（1.5cm程度）敷き、培養土を6～7分目くらい入れる。鉢いっぱいまで入れないこと。…鉢土を少な目にし、できるだけ乾かすようにする。培養土に水をかけて湿らせ、鉢の中央部に移植のための穴をあけておく。
- (2) プラスチック製フォークなどを使い、双葉が開いた苗／双葉が開く前の合掌状態の苗を傷つけないように苗床から抜き、土が付いたまま鉢の穴に根を植え入れる。ポリポット等を使用した場合はポットをひっくり返して苗を取り出して植える。根が長い場合には、根の先端を摘む・巻くなどする。
- (3) 双葉の位置が鉢の縁の高さを越えないこと。…強風で苗が倒れるなど、傷つくことを防ぐ。
- (4) 鉢底を地面に軽くトントンと打ち付け、鉢土を落ち着かせる。
- (5) 花銘札を間違いないように挿す。
- (6) メネデールをぬるま湯で200倍に希釈し、たっぷりかけます。
- (7) 培養土の上にオルトラン粒剤、固形肥料（小粒）を置く。※肥料は鉢縁に置き、半分埋め込む。亜リン酸が入手できれば、ひとつまみを培養土の上にパラパラと蒔き着蓄を促す。

注）午後3時以降の日差しが弱まってから行うなど、移植直後の2～3時間は直射日光に

当たらないように留意しましょう。曇りの日ならいつでも良い。

4. 小鉢期 (👉手引き p.42~45) 水分過多にならないよう、節水につとめます。

…色彩花と無地花では小鉢上げ日が異なるため、しばらくの間別メニューで細かく管理が必要

- (1) 移植後、2~3日は水やりしない。ただし、日差しが強く、高温により土が乾いてしまったら水を与えます。鉢の間隔は広めにとる。…鉢トレーを使用すると強風にも耐えられる。
- (2) その後は毎日水を与えます。晴れた日は朝9時頃水を20~30mL与える。このとき、微温湯や風呂の残り湯などをかけると良い。冷たい水は避けたい。…与える量は、鉢底から水が落ちるか落ちないか、夕方には表面が乾いている程度。1日に与える量は、多くても小鉢期初期は30mL、小鉢期後期には60mL。曇りの日は晴れた日の半分量程度で。
- (3) 小鉢移植後1週間ほどで本葉が出始める。水の代わりに、液肥を1回与える。…ハイポネックス青(6-10-5)を2000倍希釈したものを30mL程度。
- (4) 以後、本葉が1枚増えるタイミングを目安に、ハイポネックス青2000倍希釈と着蕾用のハイポネックス開花促進(0-6-4)2000倍希釈の混合液肥を1週間に1回程度水の代わりに与える。小鉢期後期には1500倍~1000倍希釈程度の幾分濃い液肥を与える。
- (5) 晴れて高温になると葉が大きく萎れることがある。見極めが難しいが、場合によっては午後2時~3時頃までを目安に水を少量追加する。
- (6) 殺虫・殺菌を随時行う。

アブラムシ対策：オルトラン粒剤など

ハダニ、ホコリダニ対策：ベニカXネクストスプレー、コロマイト、ピラニカなど

※使用回数、希釈倍率等、使用方法を誤らないよう注意します。

…その他、東京朝顔研究会HPをご参照下さい。

- ・液肥の計量・施肥にはスポイトを用いています。(5mL, 30mL)
- ・液肥を使用する際はボトルをよく振って混ぜてから計量します。
- ・時折、鉢回しを行い、根の偏りを防ぎます。
- ・天気予報の情報収集を小まめに行い、天候の急変には鉢を避難させるなど極力対処したい。
- ・晴天高温で鉢が熱くなる場合、二重鉢や鉢にアルミホイルを巻くなどの対処を。

これまでの経験から学んだこと

- ・壁に突き当たったら？ 先生に指導を仰ごう。
- ・苗の様子を先生に見てもらい、誤りを正す。
- ・栽培日誌を作成し、栽培記録を残す。
- ・朝顔をよく観察する。それぞれの品種により特性があるので、手引き書通りに進まないことは多々あるもの。
- ・展示会への出品は上達へのいちばんの近道。

6月12日(日)の第2回講習会では、本鉢定植直前からの作業についてお話しします。切込み小鉢を持参した方には苗の診断を行います。先生からの確かつ有益なアドバイスを直接受けられる貴重な機会です。

